

左手でお尻が拭けますか？

人を育てることでビジネスモデルを実行

～なぜインドか？インドの商売が継続できる秘訣とは？！

インドの真実。イメージが覆るような報告！～

報告者：株式会社スリート 代表取締役 吉川 徹氏

日時：2022年10月19日（水）／場所：道頓堀ホテル



今回のプラスワン例会では「中国一国だけではなく、中国に成り代わるほどの国は無いものか?!」と、プラスワン委員内で検討した結果、GDP的にも国土的にも人口的にも引けを取らないインドに着目し、インドに精通する方を選任した報告となりました。

会社概要・事業内容

本社：大阪市中央区南船場4-6-10 新東和ビル5階

設立：2003年6月

資本金：1,000万円

従業員数：24名(うち9名インド社員)

事業内容：コンピューター・ソフトウェアの企画・開発・製造及び販売業務、コンピューターのシステム利用に関するコンサルタント業務、コンピューターのシステム、またはプログラム設計技術者の派遣業務、コンピューターおよびその周辺機器の販売業務、インターネットを利用した情報の販売サービス業

出版書籍：「脱炭素化の時代に贈る 電力のキホンの本」

「情報必修時代の君たちに贈る!! プログラマーへのキホンの道」

インド進出のきっかけ

2009年。スリートの吉川さんはリーマン・ショックで大きく利益を落とし、どん底状態でした。そのような折「情報交換しましょう。一緒にインドに行ってみませんか？」と声をかけられます。

最初は訪問しただけのインドでしたが、日本の取引先から少し大きい案件話があり、そのタイミングに「インドでこの仕事を受ける」と決断して、法人化しました。

インド事情

インドは人口：13億8,000万人（2020年）。言葉だけでも公用語のヒンディー語・準公用語の英語に加え、指定言語が22言語あります。28の州ではカーストがあり、分類は実に3,000ほど。

さまざまな階級に分かれるカーストによって、一生を左右する職業も、ほぼ決められています。その中で吉川さんが精通するIT業界はカースト制度ができたあとの業界ということもあり、比較的その制限から免れるようですが、現地で採用活動を行うと、同じような階級のカーストを採用するようです。

インドの気質

初任給は1.5万ルピー前後（約27,000円）。昇給は毎年10%程度を要求してくるそうです。額ではなく、権利で考えているようなところもあり、苦労は絶えないようです。その中でも日本式の昇給制度などを採用

2019年11月改定		
N1	38,000	Japan
N2	28,000	
N3	20,000	90,000
N4	15,000	70,000
N5	7,000	60,000
NONE	0	50,000
結婚	3,000	
子供(一人)	1,000	

手当表

し、工夫しながら経営をしているのが印象的でした。

社員旅行では吉川さんも社員さんたちと一緒に目一杯遊ぶそうです。社員さんたちは、例えば土日で旅行に行く場合、金曜日の夕方に仕事が終わったら、その日の夜中からバスで出発して朝方に現地へ入り、日曜日の夜まで楽しんで月曜日の早朝に帰り、シャワーを浴びてから出社するそうです。「しんどいので勘弁してほしいです・・・」と言っていたが、このような体当たりの人間関係こそ、社員さんたちとの信頼を築けるところなのでしょう。

インドでしたいこと

同友会入会もインド進出もほぼ同じ時期。約11年の時を経て、業績も良くなってきています。その理由の一つに、やはりインド進出があると吉川さんは言います。

コロナ禍においてもインド

で当たり前のように行ってきたリモートでのサービス提供が生きているようです。そんな吉川さんの目標は「信頼ある本物の技術」を持って世界文化の発展に寄与し、日本のソフトウェアがインド発で世界に評価されることを掲げています。「インドで成功すれば、世界中のいかなる国でも成功することができる」と言われるほどさまざまな商習慣のあるインドで、体当たりの経営がますます花開くことを期待するばかりです。



左手でお尻が拭けますか？

インドでは、右手で食べて左手でお尻を拭きます。日本の文化とはまるで違う習慣を肌で感じることができる国です。コロナ禍で、日本においても仕事のやり方を変えて、いや応なしに左手でお尻を拭いた感覚だったかと思います。その中でもうまく対応していかなければなりません。今後もトイレトペーパーが無くなるような不便を強いられても「左手でお尻が拭けますか？」その環境の変化に対応することが経営者に問われると感じました。

今回のプラスワン例会を通じて、挑戦とは、嫌なことも楽しみながら実行し、素直に物事や現実を受け入れてすすめていくことが大切であると、強く感じました。私自身も会の活動を通して海外にも目を向け、俯瞰力を高めていきたいと改めて思った次第です。

日中経済交流研究会

広報委員会

文：日中経済交流研究会 プラスワン委員長

(株) エーディエフ 島本 敏

